

～子供たちの夢をかなえる教師になる！～

東京教師養成塾通信

発行日 令和5年4月15日<第3号>
発行元 東京都教職員研修センター
研修部教育開発課
電話 03-5802-0318
ホームページ <https://www.kyoiku-kensyu.metro.tokyo.lg.jp/10jida/vosei/index.html>

●第5回教科等指導力養成講座

令和5年2月12日(日)東京都教職員研修センターにおいて、第5回教科等指導力養成講座を実施しました。大久保主任指導主事からは、2月以降本格化する授業実践を前に「課題意識をもった学びを心掛けてほしい」との話がありました。

【小学校コースの講座】

○ 「国語2」

塾生は、事前課題(動画)を視聴した後に説明的文章を読んだ感想を考へておき、当日は児童が発表する感想の取り上げ方について端末を使用したりロールプレイをしたりして学びを深めました。

○ 「道徳科2」

塾生は、授業の最後の「振り返りの発問」について、決意表明を促す発問にならないように、多面的・多角的な考えにつながる発問になるように、演習や班ごとの協議・演習の時間を通して学びました。

○ 「特別活動1」

学級会の授業の前に行う議題の選定や計画委員会での活動計画の作成について、ロールプレイを通して体験的に学びました。学級会を行う際の指導・支援のポイントについて、理解を深めることができました。

【特別支援学校コースの講座】

○ 「乳児期及び就学前の支援」

指導部特別支援教育指導課 濱辺清統括指導主事から、就学前の支援について講義・演習がありました。塾生は、就学相談に関する法的根拠や保護者の声に触れ、実習先の特別支援学校に児童・生徒が入ってくるまでの過程を具体的に知ることができました。

○ 「国語・算数2」

塾生は、先輩方が作成した学習指導案とその修正案を通して、国語・算数の学習指導案作成のポイントを学び、自身の学習指導案の改善すべき点を考へ、発表し合いました。

○ 「教材づくり1」

塾生は、プレゼンテーションソフトを使ったクイズ形式の教材を事前に作成しておき、当日は発表会と模擬授業を通して、児童・生徒の実態に合わせた実践的な教材づくりのポイントを学びました。

【両コース共通の講座】

○ 「一人1台端末の効果的な活用の在り方」

専門教育向上課 関聡司指導主事から端末のアンケート機能や付箋機能等を用いた講義・演習がありました。班ごとの協議では、「どのような場面」で「どのような機能」が有効活用できるかや、自分の授業への取り入れ方を考へました。



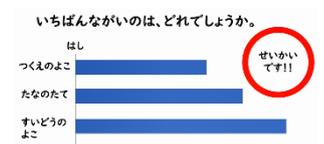
「道徳科2」



「特別活動1」



「乳児期及び就学前の支援」



「一人1台端末の効果的な活用の在り方」

◆塾生の感想から

- 国語の授業を通して、見通しがもてる授業をすることの大切さを感じた。今までは、「今日は何かなことをする」と軽く伝えていただけで見通しをもつことの意義を実感できていなかったの、これからは意識して授業をしたいと思った。
- 授業後と、授業前の学習指導案を比較し、違いを見付け、自分自身の学習指導案に反映させるポイントについて、具体的に学ぶことができた。
- 特別教育実習にも慣れ、講座での学びを特別教育実習につなげる経験が多くなってきた。もうすぐ連続実習が始まるので、更に児童理解や授業づくりができるように努めていきたい。

●第6回教科等指導力養成講座

令和5年3月11日（土）東京都教職員研修センターにおいて、第6回教科等指導力養成講座を実施しました。大久保主任指導主事からは、年度末を迎えた子供たちの姿や先生方の指導について、「自身のアンテナを高くしてよく観察するように」との挨拶がありました。

【両コース共通の講座】

○ 「外国語1、2」

文部科学省初等中等教育局 直山木綿子視学官から、外国語活動・外国語科の講義・演習がありました。塾生は1か月前から事前動画を見て予習をしておくとともに、当日は言語活動の状況や小・中・高における外国語教育の目標に係る演習を通して理解を深めていきました。主体的に学ぼうとする他の塾生の姿勢を見ながら、互いに高め合いました。

班ごとの協議・演習では幾つかの班を合同にし、実際に英語を使用する活動を行いました。普段とは異なる塾生同士で、積極的にコミュニケーションをしている姿が見られました。



「外国語1、2」

○ 「生活指導の基礎・基本」

指導部指導企画課 海馬澤一人統括指導主事から、生活指導についての講義・演習がありました。塾生は、事例等を通して「子供が安心して生活できる学級をつくることの大切さ」や「子供たちの小さな変化に気付くためには、児童・生徒理解に終わりはないこと」を学びました。また、日々の授業の中で一人一人の児童・生徒を大切にする姿勢についても示していただきました。



「生活指導の基礎・基本」

○ 班ごとの協議・演習、形成期の振り返り

塾生は3月までの特別教育実習と教科等指導力養成講座を振り返り、自己評価として4枚のスライドを作成してきました。振り返りの発表会では、自身の成果や課題を飾らずに話すとともに、同じ悩みをもつ仲間の発表を聞くことで、教師になるという自覚を高めていました。



「形成期の振り返り」



◆塾生の感想から

- 初対面の人と英語で交流することはなかなかないので、緊張したが、英語だからこそ打ち解けやすく、色々と考えながら会話できて楽しかった。
- 他の授業と同じように児童の興味・関心を中心にコミュニケーションの楽しさと意義を見出していくことが大切なのだと分かり、自身が授業を行う時にはどのような活動を取り入れようか楽しい気持ちが生まれた。
- 叱らないで自分の方を注目させることを学んだ。叱るのではなく、いろいろな技術をこれから学んで指導できる方法を実践していきたい。
- 「導入」の後の「展開」からだんだん盛り下がってしまったり、言葉遣いがまだ不十分であったり、皆同じような課題があるということが分かり安心したとともに、伸長期では改善していけるようにしっかりと取り組んでいかなければならないと強く感じた。また、成果や課題から自分では気付かなかったことに気付くことができ、もう一度自分の伸長期の課題を見直そうと思った。

●模範となる授業参観

令和5年1月～2月に行われた東京教師道場の各公開講座に参加する形で、第19期の修了生向けの「模範となる授業参観」が2年ぶりに行われました。修了生たちは興味のある授業を選び、自分たちで申し込みをし、授業参観をし、協議会に参加しました。

参観に御協力をくださった学校の皆様はこの場をお借りして御礼申し上げます。